

全国（特に海域）の地下天気図

今回は日本全体の（特に海域に特化した）解析です。地下天気図では地震活動静穏化（青い領域に注目しています）が終了したあとに大きな地震が発生する可能性が高い事がわかっています。

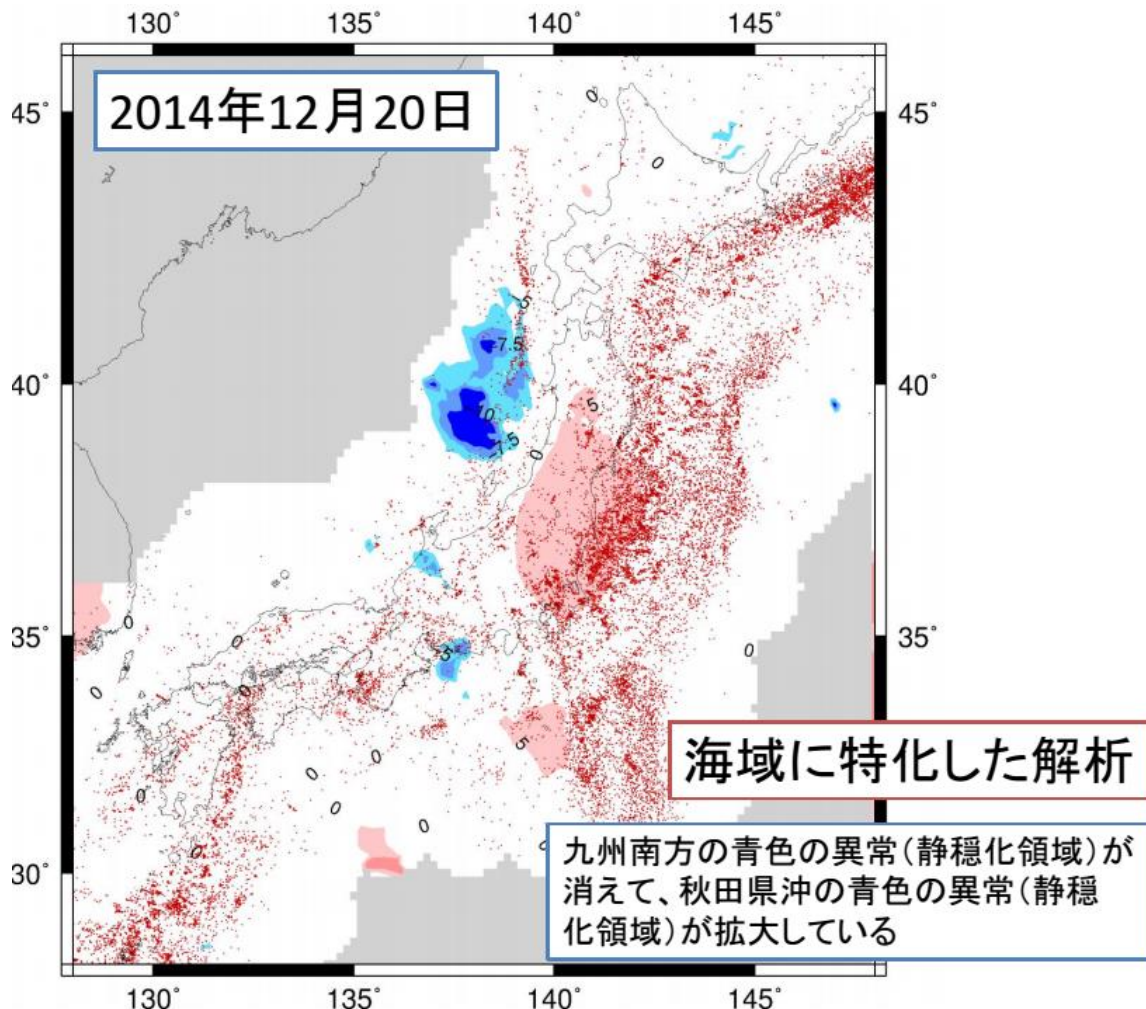
ここ4ヶ月ほどの変化についてお知らせします。今回は特に海で発生する（津波を伴う可能性のある）地震をターゲットとしています。陸域についてはまた別途詳細な解析を予定しています。

東北沖の赤い領域はまだ余震活動が活発で、現状では地下天気図だけでは将来の地震活動が評価しづらい事を意味しています。今回の情報では、

1：2014年12月20日（最新）

2：2014年10月20日（2ヶ月前）

3：2014年 8月20日（4ヶ月前）の3枚の地下天気図をお示しします。この3枚を見比べると、12月20日の時点では秋田県沖に顕著な静穏化領域が存在している事がわかります。



この秋田県沖の領域は、地震学的にも将来津波を伴う地震が発生すると言われている領域です。

次ページ右側の図は元地震予知連会長の大竹政和東北大学教授が指摘した日本海東縁の地震の空白域です。今回の異常領域（青色領域）では地震学的にも将来津波を伴う地震が発生すると考えられています（図中でGAPと記載）。

この領域の北側では 1983 年に日本海中部地震 (M7.7) が発生しています。

また下の 2 枚の図は 10 月 20 日 (2ヶ月前) と 8 月 20 日 (4ヶ月前) の地下天気図です。4ヶ月前には明瞭であった九州南部の静穏化領域が消失している事がわかります。

従って、海域において現在要注意と思われるのは 1) 九州南方領域、2) 秋田県沖という事になります (東北地方太平洋沖を除く)。

東海沖の青色の領域も少し気になりますが、現時点では異常 (青色の領域) の面積が小さく、もう少し経過を見る必要があると考えています。

